

平成26年度 第1回栗東市市民参画等推進委員 会議録

- 日 時 平成26年6月29日（日）13:30～15:30
- 場 所 コミュニティセンター大宝東 大会議室
- 出席者 野村市長、新川委員長、小松委員、林委員、寺井委員、幡委員、吉仲委員、
笠井委員
自治振興課：井上部長、木村課長、井上課長補佐、津田主事、北村主事補

●議事記録（概要）

1. 開会

進行：事務局

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

新川委員長、野村市長

4. 委員の自己紹介

5. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について

6. 報告事項 進行：委員長

(1) 平成26年度実施事業について・・・資料1

①協働事業提案制度

②栗東市市民社会貢献活動推進基金補助金（元気創造まちづくり事業）

資料説明：事務局

(委員長) 龍谷大学の学生が「東海道ほっこりまつり実行委員会」に入っているということだったが、どのような形で参加しているのか。活動内容等を教えてほしい。

(委員) 協働事業提案制度の「東海道ほっこりまつり実行委員会」、特に民家活用プロジェクトとほっこりまつりのプロジェクトで活動させてもらっている。民家活用は毎週日曜の10時～13時までで、今日も開放している。最近では、田植えを一緒にやったことをきっかけに子どもも来てくれるようになり、子ども達の遊び場になっている。そこに高齢者も来て交流の場となっている。また、今までは景観について地域と龍谷大学で別々に取り組んできたが、景観のルールについて話し合う場としても民家を活用している。今日傍聴に来ている学生も、ワークショップなど企画の段階から参画させてもらっている。

もう一点は、治田学区地域振興協議会の布おもちゃ作りで、たまたま個人的なつながりで布おもちゃの講師の方と知り合いということもあり、一緒に活動させてもらっている。そこでは学生は作成の手伝いだけだったが、せっかくの縁なので、布おもちゃを使った新しいおもちゃを発案して作るということも始めている。地振協の枠組みを越えて、大学と地域と一緒に関わっていきたい。多角的に活動してこの3年間で培ってきた関係を活かして行動していきたいと思っている。

(委員長) 学生が地域に入ってきて、地域の皆さんが元気になるという構図が生まれている。今話にもあった子どもや大学生など、若い力が間をつなぐような活動が広がっていきそうな感じで、このまま続けていってほしいと思う。

(委員) 前回の会議でも話したが、大学という組織として自治会に関わっていくときに、協定があったほうが入りやすい。市のほうには働きかけをしているが、あまり上手く進んでいない。大学からではなく、栗東市で手を上げて大学を募集すれば、多くの大学が興味をもってくれると思う。また先日、滋賀県立大学では新たに5つの自治会と協定を結んだと聞いた。このように、大学が地域のまちづくりに関わっていく流れがあるので、栗東市には大学がないが、県内にはたくさんの大学があるので、是非推進してほしい。

(事務局) 市としては、協定については、横のつながりを図りながら関係各課で協議をしているところで、またそのことでお世話になることもあると思うので、よろしくお願いしたい。

(委員長) 地学連携・域学連携で、大学と地域がどのようにwin-winの関係を築いていけるか、どのように協働して進めていけるか、全国には様々なモデルが出始めている。例えば、総務省の域学連携のプログラムでは、大学がない自治体でも外から大学を呼べるように、交付税を使って色々な支援を行おうと用意している。始めるとしたら来年以降になると思うが、栗東市でも大学や若い力を積極的に活用し、また大学も市を通じて教育・研究の成果をあげていけるような良い関係を築いていただけたらと思う。既にそのような活動の種が各所にあるので、それを伸ばさない手はないと考えていただけたらと思う。また行動計画のなかにも、このような観点をに入れていければと思う。地域のなかに入っていくのは非常に大変だとは思いますが、

行政と大学などが上手く役割分担して、良い形で進めていけたらと思う。

(委員) 全体がもっと関わり合って、知識の共有ができればいいと思う。団体の数を増やすというよりも、幅広い範囲から様々な個人の参加者を増やして、色々な意見を取り入れていくことが大事だと思う。そして、個人が各活動場所で学んだことを、自分の自治会などにフィードバックしていくことでより活発な活動が期待できる。

(委員長) ただ単に助成金・補助金をもらうために競争するのではなく、新しい仲間を見つけ切磋琢磨していけるような関係を作っていくことも必要になってくる。例えば、滋賀ものづくりネットさんの栗東駅前夏まつりでは、色々な団体に関係していて、年々参加団体が増えてきていると話にもあったが、色々なベース（地振協、NPOなど）で進んでいくと活動に広がりが出てきて良く、このようなネットワーク的なものを全市的にもう少し応援したり紹介したりする役割が事務局側に必要かもしれない。

(事務局) 栗東駅前夏まつりでは、初めは滋賀ものづくりネットさんが手をあげて取り組んでおられたが、昨年には栗東駅周辺の事務所の有志により“絆ネットワーク”という組織もでき、今は共同で企画を進めておられる。昨年度には自治会にも声をかけて、今年からは企画の段階から自治会が参加するということがもうかっている。活動に広がりが出ており、元気創造まちづくり事業の良い典型事例になっていると考えている。

(委員長) こういう動きが色々なところで出てくると良いと思う。

7. 協議事項

(1) 平成26年度市民参画と協働によるまちづくり推進に関する事業計画・・・資料2
資料説明：事務局

(委員) 感想だけになるが、広報を見せていただいて、元気創造まちづくり事業において、市民団体活動推進コースと地域振興協議会コースが横に並んで載っているのは良いことだと思った。一市民からすると、市民団体活動推進コースには少し距離感がある人が多いが、自分が参加したことがある地振協コースの草刈りやかまどベンチの活動が同じ紙面に載っていると、身近に感じることができ、取っ掛かりとしても非常に良いと思った。

(委員長) 全市的な大きな範囲での活動、他方で、特定のテーマでの活動や地域に根付いて身近なところでの活動、その両方がないとこれからのまちづくりは進めにくいと思うが、その両方が栗東市でしっかり出てきているのは良いことだと思う。ただ、

どちらとももう少し数が増えてきたらと思う。

(委員) 地振協コースにおいて、地域振興協議会では審査を受けて来年から活動開始で、実際にやってみないと成果も課題も分からないところではあるが、担当者としては何をやるか困っているところでもある。ボランティアをすること自体は辛いこともなく楽しんで参加できるが、役職をもった人とそれ以外の人との間でボランティアに対する意識の差が大きい。元気創造に申請してこられる団体はみんながその事業を行うという意味で統一されていると思うが、学区全体を巻き込んで行う事業になると、意識の高い人から意識の低い人など様々な人が学区にはいるので、それをまとめるのは非常に難しい。このことを分かっていた上で、行政の人にはこれからの事業を進めてほしいと思う。

(委員長) 地域には色々な方がいて、色々な考え方がある。その中で、地域でこれだけはやっておかないと、という意識から自治会内の活動なり地振協の活動なりが始まってきたと考えている。地域のなかで支え合わないといけないという意識をどうやって育てていくか、是非このために資金を使っていたきたいと思う。特にかまどベンチが注目を集めるのは、防災に関して地域で一緒に活動していかないとけないという意識の現れだと思う。地域のなかで課題を少しずつ共有して、それを行政の事業に上手く乗せてやっていくという姿が出てくると、地域の繋がりにも広がりが出てくるのではないかなあと思っている。

当然それぞれの地域にはそれぞれの個性があるので、一遍に何でもできるわけはなく、また慌てて進める必要もないので、少しずつ前に進めていければいいと思う。予算の配り方については行政がしっかり考えて、本当に必要としているところをしっかりと見極めて、そこに適したお金の出し方をしていけるような工夫が必要だろうと思っている。お互いの意思が合致しないと良い活動にはならないので、行政と市民、市民と市民の間を上手くかみ合うように掬っていくのが、協働事業や元気創造まちづくり事業の重要なポイントになると思うので、大変だがそれぞれが汗をかく必要があると思う。

(2) 市民参画と協働によるまちづくり推進方策について・・・資料3

資料説明：事務局

(委員) 広報について、事業の活動実例とともにその写真が載っていて分かりやすく良いと思うが、ロゴマークが載っていないのが残念かなと思った。ロゴマークが付いていれば、誰が見ても一目で分かり、より分かりやすいものになると思う。

(事務局) 採択団体には、パンフレットやポスターなどにロゴマークをつけてもらうようお願いしている。今年度より市の Facebook が始まっており、そちらのほうでも地域の活動を発信していけたらと思う。

(委員長) シールを作って貼ってもらってもいいかもしれない。

(委員) ボランティア登録団体が減っているという説明があったが、ボランティアの定義・解釈の仕方についてももう少し広げてほしい。登録団体には出前の形をとるところが多いと思うが、ボランティアにも色々な形があり、出前の形をとる必要がないところは登録しないと思う。地域でもボランティアをしている方はたくさんおり、もちろんそれもボランティアに入るもので、そこをしっかりとボランティアとして認識していただきたいと思う。

(委員) 支援してほしい側からすると、登録があると情報を探しやすくなる。また、ボランティアを必要としているところへ支援もしやすくなるというメリットもある。行政が地域に出向いて、ボランティア活動を探すのは中々難しい。

(委員) そのような利点があることは理解している。ただ、登録団体だけがボランティアをしているということではなく、地域でされているボランティアもしっかりボランティアとして認識してほしいという意味で言った。登録団体の数だけ見て減っているという判断はしてほしくないと思った。

(委員) 基本的なことになって申し訳ないが、どのような団体が登録しているのか。また、どのような支援をしているのか教えていただけたらと思う。

(委員) 平成25年度からボランティア市民活動センター（以下ボラセン）が社会福祉協議会の中に入って、試行錯誤しながら進めている最中ではあるが、登録団体の特徴としては、自らの持っている特技（手品、音楽など）を活かして地域に出向くという形の団体が多い。団体には入っていない個人のボランティアについては、色々なところからニーズが入ってきたところで需給調整をし、その後、必要とされている場所に行っていただくという取り組みをしている。財政的な部分については、社協等の会計や県・民間助成金を活用して、そこにマッチングした場合にこちらから助成させていただくという形を取っている。登録されていない地域で行われている活動も当然ボランティアといえるし、今後のボランティアの在り方という点では、国の法律（生活困窮者自立支援制度や介護保険等）も変わっていくなかで、その変化に応じたボランティアのニーズも出てきて、これからはより地域・生活に密着したボランティアが今後必要になっていくと思うし、そのようなボランティアをする人の育成にも取り組んでいく必要があると思う。

(委員) 栗東市のボラセン自体も、県単位や、より大きな単位でのボランティア登録機関に登録してもいいのではないかと思う。本学でも、栗東市のボラセンに登録の伺いを出している。ボラセン同士やボランティア関連機関同士でのネットワークを広めていけばいいのではないかと思う。

(委員長) 従来の社協系のボラセンは、全国的に、基本的には元々福祉施設へのボランティア活動をする団体の登録が中心で、それをボラセンがマッチングするという図式だった。しかし、今はもうそれだけではなく、幅広い社会全体の様々なニーズに対応したボラセンにしていかななくてはならないということで広がりが出てきている。来年から本格的に始まる包括支援や生活困窮者問題に始まり、環境問題や子育て支援など色々な場面でボランティア活動が必要になってくる。栗東市のボラセンも大きな転換期にあり、必要としているところにいけるように、またそのような活動をしているボランティアに対して必要経費や保険など色々なことを含めて支援していく体制が必要になってくる。そして、その体制の整備が、今後の栗東市全体でボランティアの意識を高めていくポイントになってくると思う。全国ベースの話ではあるが、栗東市でも同じ状況にあるのではないかと思ったので話をさせていただいた。

(委員) 今話にあったように、福祉、医療、介護系に関わったボランティアが前段の組織に多く、その分野において広がりを見せてきているのは良いことだと思う。一方で、スポーツなどテーマ型の活動にとっての中間支援団体はどこかと考えてみた場合には、体育協会のほうがいい場合もあり、また文化の分野ではさきらということになる場合もある。このように分野ごとの中間支援団体が必要になってくるのではないかと思う。さきほど委員長の話にもあったように、社協のなかのボラセンが他の分野へ手を広げていくこともあると思うし、他方で、中間支援団体あるいは行政が間をもつ場合もあると思うが、いずれにしても相互に連携を図り、しっかり意見交換をして、どの分野にもバランスを欠くことなく支援できるようになればいいと思う。

(委員長) 色々な考えをもった方々が栗東市内で活動しておられ、その団体のニーズに合った支援が必要になってくるのではないかと思う。残念ながら、まだ栗東市ではそのような中間支援が弱く、これからその部分をどうしていくのか、行動計画の課題にもなってくると思っている。何もかも社協・ボラセンということではないと思うし、どのように役割分担していくのか、場合によっては龍谷大学のような外からの力を借りてもいいと思うので、色々なパターンを考えていきたいと思う。

(委員) 災害時には色々なところからの支援が必要になってくるので、社協やボラセンにより多くの団体の情報を集約することができればいいと思う。また、市民団体やNPOも、登録する際に、災害時に自分たちに何ができるかという意識をもつことができるようになるといいと思う。

(委員長) 東日本大震災のときには、ボランティア受け入れで、社協やボラセンが大きな結節点となった。一方で、社協やボラセンで受けきれない、あるいは経由しないボランティアもたくさん生まれた。これらは、各ボランティアが得意とする分野や力量も様々で、その支援を受ける力（授援力）を地域全体で備えていくことが必要になってくると思う。

(委員)「啓発」という言葉は上から目線なので、「周知」などの言葉に置き換えてほしい。

(3) 市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画について・・・資料4
資料説明：事務局

(委員) 策定プロセスにおいても協働が求められる。市民ワークショップやWEBアンケートはどのようなものを予定しているのか具体的に聞きたい。言葉は悪くなるが、いわゆるアリバイ作りにならないようにしてほしい。

(事務局) 市民ワークショップについて、これから検討していく予定ではっきりとは決まっておらず、ご意見をいただきながら進めていきたいと思う。事務局として考えているのは、市民団体などが集まってポストイットに意見を出していただき、そこでいただいた意見を計画に反映していく形で進めていければと思っている。WEBアンケートについては、ある程度計画ができてきた段階で、市のHPのアンケート機能を使って意見をいただくような形ができればと思っている。

(委員長) アンケートの設問はどのようなものになりそうか。

(事務局) 市民の協働の到達度合が分かるような設問にしたいと思っている。出していた意見を参考にしていくという形になると考えている。また行動計画の策定度合もHP等で簡単にでも示していきながら進めていきたいと考えている。

(委員) ワークショップをするときにいつも課題として、誰を選ぶのかという代表性の問題があるので、それに対する説明・根拠をしっかりと示せるようにしておく準備が必要になってくる。またWEBアンケートをすると、今まで声を発しづらかった人の声も拾えるので良いと思うが、今回市が行うということで台帳なども使えると思うので、統計手法に則りしっかりとランダムサンプリングして、その根拠を明確に説明できるようにしておかないといけないと思った。

(委員) ワークショップに参加する団体の範囲だが、過去に助成を受けたところやボラセンの登録団体などは比較的声音をかけやすいと思うが、今活動できていない団体に対してどのように呼びかけていくのか、難しいとは思いますが、創造力を働かせて方法を考えていただきたい。

(委員) 行動計画は具体的にはどのような計画になるのか。

(事務局) 今回の行動計画は協働だけではなく市民参画についても含めた形で作成していく。これまで、栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例と協働事業提案制

度で進めてきたが、これをより具体的に、また毎年課題などの洗い出しをしているがその整理、また市民主体なのか協働なのかの指標の整理、精査を行いながら進めていきたいと思っている。お手元に配らせていただいたのはまだサンプルのもので、これから肉付けしていく必要がある。策定スケジュールはかなりタイトなものになると考えているが、来年度から開始する第五次総合計画後期計画や第七次行政改革大綱とも関わっていて、両者との整合性を図る必要もあるので、すり合わせをしながら組織としては縦割りではなく横割りで動いているところである。

(委員) 条例 1 1 条の手続きにワークショップ等が書いてあるが、このような形で行うということか。

(委員長) 条例 1 1 条にある市民参画の手法を、これからの行動計画のなかでどのように活発化させていくのか考えていくことになる。また同時に、行動計画策定プロセスにおいてもその手法を使って進めていく、二重の形になっていると理解していただければいいと思う。

(事務局) 事務局としては、意見交換会を行うようなワークショップを考えていて、研究という段階まではいかないと思う。意見をいただくというのも市民参画の 1 つの手法なので、行動計画策定のプロセスにも取り入れていきたいと考えている。

(委員長) ワークショップがこういった形のものになるのかは、今後の進み方次第だと思う。ご指摘のような研究の段階までいくようなものになるか、問題指摘にとどまるものになるかは、これからの設計で変わっていく。各委員からもあったように、出席者や進め方、目標などを考えていかないといけないし、そのときに当然、市民参画と協働を掲げているのだから、幅広く市民の方に来ていただかなければならない。それと同時に、市民参画と協働については、これまでの積み上げがあり、意識の高い市民の方や、積極的に活動をしていて協働の実績をもつ団体や地域で活動している地域振興協議会のような団体など特定のターゲットになるグループもいて、そこをバランスよく絞り込んで課題を明らかにしていく。そして、その課題をグループの中で議論を深めて、今後の展望・方向性を出すというところまでいけば、ワークショップとしては成功といえると思う。

アンケートについては、WEB で実施する予定だということで誰でも答えやすいと思うが、もし全市的に 1 0 0 0 人ぐらいを対象として用紙を送付して回答してもらうという手法を取ることができるなら、市民参画についての質問項目も入れていただければとてもいいものになると思う。

(事務局) ご意見いただいたことは事務局のほうで検討していきたいと思う。また、行動計画のサンプルは、各条例を章立てに落とし込んだものになる。そのなかでも、5 章がこの行動計画のメインの部分で、その指標を定めていきたいところになるので、ワークショップなどでご意見・ご指摘をいただきながら作成していきたいと考えてい

る。さきほど説明したシートは、基本的には進捗状況確認のものとしているが、できれば総合計画のシートと整合を図りたいと考えている。

(委員) 資料3の話になるが、今までの積み上げがあるのだから、その課題を洗い出して、次の計画に活かしていければいいと思う。また、助成金は3年で終わりということだが、その後のフォロー体制も必要になってくると思うし、そのような体制を計画のなかに取り込んでいけたらいいと思う。

(事務局) 以前、ガンバル基金のときに団体を立ち上げ、そして協働事業提案制度で成熟していった団体もあるので、そういう成功事例を計画のなかでも反映していけたらと考えている。

(委員長) 今回作成する行動計画は、条例を推進する上でのものなので、市が作成する行政計画ではあるが、一方で、市としては市民参画や協働が進んでいないと成果が上がったとは考えられないので、市民の方や団体の方にも一緒にやっていただかないと上手くいかないという構図になっているし、それを上手く進められるような行動計画にしていけないといけない。

(委員) 例えば、ボラセンの役割も行動計画のなかに入ってくる可能性があるのか。

(委員長) ある。協働提案で提案していただかないと進まないものもある。

(事務局) 提案制度について、例えば提案件数の増減は自治振興課の担当になるが、その増減についての計画を作って、その取り組みがどれだけ進んでいるのか進捗状況を管理し評価していきたいと思う。当然数値目標は必要になってくると思うが、他方で、数値で評価できない部分もでてくると思うので、そのときは別の指標を用いて進捗管理・評価をしていきたいと思う。

(委員) 今までの話を聞いて、「参加」より「参画」という言葉のほうがいいと思う。行動計画策定も、できるならば、協働事業でできるのが一番良い。難しいとは思いますが、会議等にも市民には仕事として意識して来てもらい、市民の観点からの市民参画を反映できていけたらいいと思う。

(委員長) そのあたりは、実際に何に対して参加するのか、どういう目的に向けて協働するのかによって、それぞれ程度が違ってくるということもあると思うので、策定の際には色々なレベルのことを想定していけないといけない。これから行動計画の具体的なメニューのなかで、どのような内容にして毎年度どれだけ達成しているか整理していただければいいと思う。

8. その他

第2回 栗東市市民参画等推進委員会 開催日

平成26年度11月19日(水)午後

平成27年度 3月 1日(日)午後 ※午前中は成果報告会の予定

9. 閉会